

市内の桜の状況について

1 市内の桜の種類

- ・桜にはヤマザクラ、カスミザクラ、フゲンゾウなど、三百種を超える種類がある。その一種、ソメイヨシノは、葉に先んじて花が咲くことから、花見の桜として好まれ全国に広がった。
- ・兵庫県では、平成3年度から平成12年度に「ふるさと桜つつみ回廊」事業により、河川沿いに桜を植樹することが推奨され、市内でもこの時期に多くのソメイヨシノが河川堤防等に植樹された。

2 市内の桜の管理状況について

(資料 2-2)

(資料 2-3)

(資料 2-4)

3 桜の管理に係る課題

・てんぐ巣病のまん延

→てんぐ巣病はカビの一種によって引き起こされ、感染すると花が付かず、樹勢が衰えていき、桜の木が枯れる原因になる。市内の主な桜であるソメイヨシノはこの病気にかかりやすい。まん延防止には、病気にかかった枝の切除が必要だが、高所での作業が必要であり、専門的な機材や技術が必要。



↑てんぐ巣病にかかった桜の枝

・病虫害等

→害虫やキノコ、コケ、つるなどにより樹勢の衰えや枯死が発生する。



↑クビアカツヤカミキリ（市内では未確認）
と被害木のフラス

・ 生育に適さない環境への植樹

→狭い間隔や日当たり、風通しの悪い場所等、生育に適さない場所への植樹により生育不良が起こる。



↑ 篠山川堤防の桜並木

・ 管理者が不明確

→自治会、市、県、個人など、管理主体が不明確で適切に管理されていない場合がある。



↑ 篠山城跡の桜

・ 適切に管理できる人材の不足

→桜を良好な状態で管理していくためには剪定が必要だが、桜を適切に剪定できる人材が不足している。

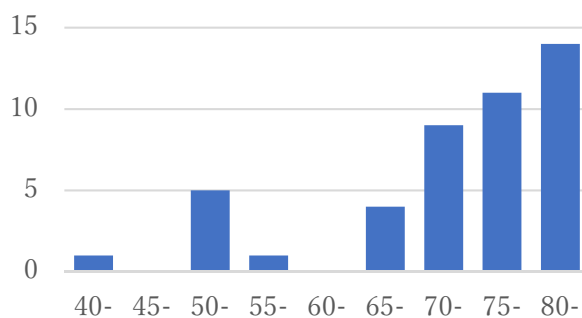
※ささやま桜協会により地域等で桜を守り育てる人材を育成する「桜守養成講座」が年1回実施され、し、これまでに45人が桜守に認定されている。



↑ 桜協会主催の桜守養成講座

【地区別桜守認定者数】

丹南地区 … 29人
 篠山地区 … 8人
 西紀地区 … 4人
 今田地区 … 2人
 市外 … 1人



↑ 年代別の桜守認定者数（2023年時点の年齢）